

Kodansha Comics A

高橋 脩
Hosono
Takashi
Shū

6



ISUCA

[イヌカ]



OSAMU Takahashi presents

目次

第參拾參話	引越し	003
第參拾肆話	告白	025
第參拾伍話	訪問	051
第參拾陸話	覚悟	065
第參拾柒話	宣告①	091
第參拾捌話	宣告②	113
番外編	番外編	139



ISUCA

[イスカ]

高橋 脩

原作
監修
プロデュース

引越し

葉世瑠様

お部屋のたたみ方とか
掃除道具の使い方とか

必要なことは
このノートに纏めて
おきましたから

ありがとう
葉莉

私、毎晩
電話しますから

葉世瑠様
一人暮らし頑張って
ください！

一人じゃないわよ
あたしも真一郎も
葉子もいるんだから

そうなんです
けども……

心配しすぎよ
葉莉

はい……
すみません



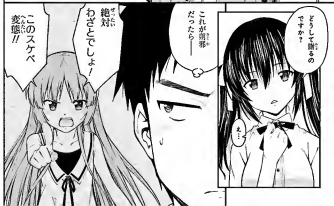




あ 真一郎さま

下着はこちらの
箆簀にしようようにと
茉莉のメモに
書いてあります

はーいめん
中身よく見ずに
出しちゃって



どうして謝るの
ですか！

これが萌邪
だったから――

絶対

わざとでじやー

このスケベ
変態！！



須世璃さん？



怒られないのも
なんか調子が
狂うな

そういえばさ
須世璃さんは
なんでこっちに
住むことにしたの？



……好きなのに

負けたく
なかったから



負けたく
ないって……？

それは――

それはもちろん
妖魔退治のこと
よね

ほらこの時の
巨大な
覚えてるでしょ？

先生

はい

あれは開けることが
出来たけど
影響はまだ
残っていて

いまこの辺りは
普段よりかなり
魔が
発生しやすい
状態になっているの

そうなんですか
……

まそんなわけで
御世帯もこつちに
いたほうがいだろう
ってことになったのよ

ね？





胡邪

片付けは
済んだ？

どうも……



見れば
分かるだろ

今日いっぱいは
かかるって

それはいいけどさ
いま何時か
分かってる？

もうお昼の時間
過ぎてるわよ



あ、悪い
すぐ作るから

あらあら

まったく……
あんたって頭骨痛の
ことになるよ
張り切るわよね

今日だって
朝からこの部屋の
掃除しちやってき

普段の掃除より
力入ってたんじゃない？



姉さま
真一郎さまを
責めるのは
酷過ぎです

あいんだよ
御座って虫の居所が
悪いだけだから

な？

ちよつと…
それじゃあたしが
子供みたいじゃない



そんなんじや
ないのに…



それじゃ
ちやちやつと
作るか

簡単なので
いいよな？

あ待って
先にシャワー
浴びてきなさいよ

え？

だってあんた
朝から掃除して
ホコリ被ってる
でしょ

ちやんと綺麗にして
服も着替えてからね
ご飯は

…はいはい

あの二人……
うまくやって
いけるかな

いくらライバルと
いっても普段は
もう少し仲良く
してもいいのに……

二人の喧嘩の
本当の理由が
分からぬとは主様も
鈍感よのう

!!?



や…夜叉王…

なんでここに

主権をもっと少し
女々というものが
分かるように
ならんと



どうじゃ？

妾が女というものを
主権に教えて
頂ぜようか？

い…いや
それはその…

何を感嘆する
ことがあつたのじゃ

妾はもう主権に
最も大事なものを
捧げてしまつておる
というのに



え……

妾は主権の側

妾の体
どうぞ主権の
理のままで











いっ



ちょっと真一郎
早くなんとか
しなさいよ！

あ……あ



これは真主の力で
命じるしかないか



あんた今の笑いは
どういう意味！？

待て待て
これ以上ややこしく
するなつて



真主として命じる

刀の姿に

ん？

主権
いま何か仰った
かのう？

ち……ちよっと

ふはあ……

真一郎さま
大丈夫ですか？





あ……




真一郎さま
すみません

……ごめんじゃ
ないわよ

あ……いや
こちらこそ
ごめん



……ごめん

皆^{みな}もう
いい加減^{かかん}に
しなさい！
バカ
——
っ!!!



……



いつもこんなに
賑やかなのですか？

そうね
それなりにね

初^{はつ}日^{にち}から大騒^{おほさわ}ぎ
だったわね



こんな賑やかな
春らし

今まで経験
したことが
なかった

……楽しかった

ふふ
いい表情するように
なったじゃない

そうですか？

これもきっと
遠野くんのおかげね

今の真一郎さまは
私より姉さまのことを
大切に思っている

すき……

いつかきくと

柚子
お茶もう一杯
買えますか？

いいわよ
ちよつと待って
なさい





あたしは
真一郎が好き!!!



あーもう
こんな時間



……また
あの時の夢



真一郎さま
これでよろしい
ですか？

そうそう
そんな感じ

真一郎も起こしに
来なさいっての

夏休みになつてから
どんどん起きる時間が
遅くなつてる！

告白 第参拾肆話



須世璃さんは
朝邪と違って
手伝ってくれるから
助かるよ



まあ…まだ
平慣れなところは
あるけど



シンイチロ
あたしも手伝ってる
よ！

あつちの部屋の
雑巾がけ終わった
ニヤ！

そうだな
タマ子はいつも
手伝ってくれる
もんな

サンキエ

ニヤ！
撫でて撫でて

なに？
鼻から汗腺？



もう逃げないって
決めたのに

変に意識しちゃって

はあ！

かえって前より

前よりだいぶ
親密になったみたいね
あの二人

やっぱり浅野くんて
須世璃みたいな子が
タイプなのかしら

!?











さあね

てか二人だけなんて
今まで無かったんじや
ない？



姉さまは…

本当に真一郎さまと
結婚される
おつもりですか？

す…須世璃？



須世璃はあたしに
無いものをいっぱい
持つてる

あたしには…
何があるん
だろう…？





あなた…本当に
真一郎のことが
好きなの…？

…分かりません



私…今まで人を
好きになったことが
無いから

これが好き…と
いうことをわか
分らないんですけど

でも真一郎好きまといると
今まで知らなかった
…温かい感覚が
私の中に芽生えて
くるのを感じて



それが

好きってこと
じゃない



それが…とても
かけがえのない
ものに思えて―



呆れた

本当に
知らないのね



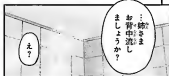
私達……撫子に
感謝しなくては
真一郎さまと
引き合わせて
くれたことに



だから
真一郎みたいに
そういうのと無縁な
人間が眩しく
見えるんだわ



……ま
あたしにも
分かるけど



……姉さま
お背中流し
ましようか？

え？



あんたが？
いったい何の
つもり……？

いちおう
この家の家主は
姉さまですから

置いて置く
お礼ということ







どうですか？
姉さま



こんな……
女同士でやもんじや
ないわよ……

いっしょ
真一郎にもしちゃ
ダメだから

絶対!!

駄目……
为什么呢？



もう……
なにか考えてんのよ

やっぱり感傷なんか
しちゃダメ!









そこで
見てなさい

この矢が
的の真ん中に
当たったら
言うから

ええ外れたら
教えてくれない
の？

真一郎は
分かっているでしょ
あたしの弓の腕

信じて見てて

この矢が
当たったら
言う

真一郎に
「好きだ」って

あっ
シンイチロ

ほらこれ
見て見て

Sarajevo









まったく……
次やったら只じや
おかないわよ!

別にわざと
じゃ——



分かったよ
ごめん

機嫌をおして
くれて

でも——



真一郎とはなんだか
こうしてるほうが
落ち着く

そうね

それじゃ今日の夕飯
あたしの食べたい物
作ってくれる?



も……
タマ子のせいで
台無しじゃない

ふんだ



な…なんだよ
それ



食べたい
ものって？

それは秘密

今あたしの
食べたいものを
察して作りなさい



でも

な…なあ
せめてヒント
だけ――

あたしは
真一郎が好き



今はこれで
いいか

べーっだ

第拾話

了







すごい！

おお！

こりゃ
ちよつとした
お屋敷だね

いいなあ
素敵なお家

朝那ちゃん
本宮にここで
一人暮らしなの？

え……ええ
まあ……

降とか
大盛じゃない？

へえ——
ホントにお嬢様
みたい

そ……そういうのは
家政婦さんに
任せてるから

Apple Pie



— 30 分前 —

いい？

ぜったいに
物言たてるんじや
ないわよ

一回言たてる毎に
給料一万円
引くからね

あんたが
この家にいること
妻と文月に
知られたら

あたしの人生
終わるんだから！

そんな
大げさな……

あたしにとつては
そのくらいのも
ことなの！！

もし「男」と
思われてるなんて
知られたら

今まで積み上げてきた
「清潔で可憐なお嬢様」
っていうあたしの
イメージが――



なんで……

そ……それは
ダメ!!



それなら
タマ子を連れて
どこか行つてようか?



とにかく!
奏絵達が帰るまで
部屋でおとなしく
してること!!

わ……かった



だって……それじゃ
デートみたい
だし



いいかタマ子
おとなしく
してるんだぞ



俺はともかく
タマ子がい僕
できるかな……

はいニヤ!!

!!?

何?
いま何か聞こえ
なかった?

あ……えっと
野良猫じゃ
ないかしら

よく廊に
来るのよ

そっか
廊も広いものね

ほんと
困っちゃうわ

真一郎

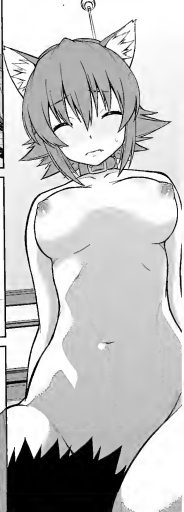
タマ子の管理
ちゃんとしなさい
よ……ノ















すすまん
話は後で――

きやつ!?



あんた静かに
してろって
言っただでしょ!

あやうく
バシるよ!



なんなのよ



第拾伍話
了

シンイチロ
今度は二人で
お出掛けしな
うね!

その前に
タマ子^{タマコ}がなんで
探^{サシ}なのか説明
しなさい!

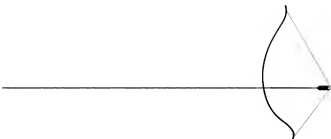
もう……っ

あゝああ
また今度は



ん――っ

すつきり
したニヤ!







分かりました
それではお待ち
しています



……え
もうそんな所
まで？

第参拾陸話 覚悟



・綾香
・道世
道世、どこか
知らない？

真一郎と買物
行ってる



ただいま



ふう……

面倒くさい
なあ





どうしてもあたしに
やれって言うなら
あんたも手伝い
なさい

はいはい



ごめん

うっさい!
あたしの身長じゃ
抱かし辛に届かな
かったの!

もっと低いとこに
干しなさいよ
バカ!!



真一郎

あ……



ああそれは
下の戸棚に――

真一郎さま
これはどこに
しまえば――?



真一郎さま
これは?









お母さま……

撫子……あなた
言いましたよね

須世璃のことは
自分が責任を持って
面倒をみる……と



この近辺の状況が
不安定化して
①の発生率が
大幅に高まっている
のは事実

しかしそれでも
勝邪さんや
このような男のいる
家に須世璃を
同居させるなど

本来なら決して
認められるものでは
ありませんでした



もし須世璃を
傷モノにでもされたら
どう責任をとるのです
……!?



撫子……あなたが
しっかりと須世璃を
見ているというから

そして母上も
承諾されたから
私も流々承知した
のです

それがこのような





どちらにせよ
ここに須世璃を
置いておくのは
悪影響が大きすぎ
ます

須世璃
一緒に来なさい

家に帰ります



須世璃？

私、戻りたく
ありません

そんなん！

待ってください！





須世璃 あなたは
正常な判断が
出来なくなつて
いるのです！

一度戻つて
冷静に考えなさい

お母さま
私は冷静です！



まゝ待つて
ください！



それにあたしだって
須世璃がここに住むの
ちゃんと認めた
訳じゃないし



明邪も何か
言つてくれよ

あたし叔母様
に
嫌われてるし
あたしの言うこと
なんか聞かないわよ



……………







これ以上、邪魔を
するなら
ここからは百目鬼が
相手をします

ま、待って
ください！



真一郎さま!!

がっ











眞名を知られた者は
追放処分となるのが通例

でも唯一
大嫌いでのみは
真名を明かすことが
認められているの









私の顔世間が

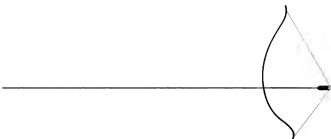
……おまえの
せいだ



知らないわよ……!



さてさて
強野くんはどうするの
かしらね





母上
どうして…

どうして黙って
くれなかつたの
です!?

ですがこのような
こと……

もし他家に
知られでもしたら
家名に取り返しのつかない
傷を負います!

ほう……何故だ?

何故とは……?

大声を出すな

鬱陶しい





あれは
真壁だ



母上はあの男を
我が家に招き入れる
ことに固執が
無いとでも？

あのようなら……
どこの馬の骨とも
分からぬ――



我が家の当主の
伴侶となるに十分な
資質だと思うが？



露力だけなら
それは……

しかし――



ですが――

世界に二人と
おらぬような
異域よ













よしノ



それにしても……
見慣れない妖魔
だったわね

過去にこの辺りに
出現した妖魔は
一通り頭に入れてた
つもりだったけど



この辺りは
片付いたわね

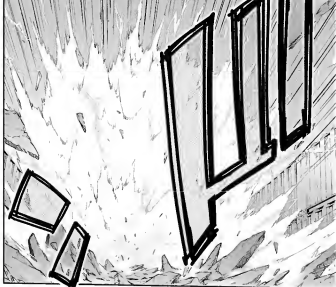
妖魔の封印と
門の始末は
処理班に任せて

あたしは他のところ
行きますか













シンイチロ





















第參拾捌話 宣告②





え……



油断するで
ないぞ主権
見た目通りの
妖怪ではない

おはよう



真一郎!!



あんたこんな時に
なにやつてんのよ!!

なによ操って!?

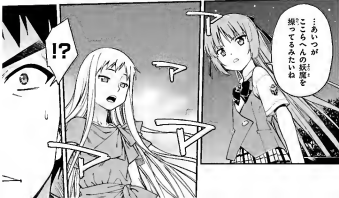
ま……
待った待った!

周りを見ろって



……あいつが
こちらへんの妖魔を
操ってるみたいね

!?









じゃあどうすれば

なに簡単
な



あの歌声を
まともに聴くと
精神を支配され
操られてしまう
ようだの



であるから主様が
あの妖鏡に近付き
真名を尋いてしまえば
良い



夢に刻じゃ
精神に作用する
術は効かぬ

そして夢を
手にしている限り
その力は主様にも
及ぶ





か……体が

おまえはそこで
じっとしてろ！

夜叉王

さっきおまえの
言った作戦でいく
力を貸して
くれよ！

承知！！





近付かずに
倒すには――

駄目！ 迂回に
近付けない

……

神々しい
あの技を

主様
今じゃ

ああ



だから見た目
通りではないと
言っただけやろ

これは……

わ……っ!?

こいつの真名は

ふ……二人とも

島津流弓道術
奥義

島津流弓道術
奥義

……え？

迦具土

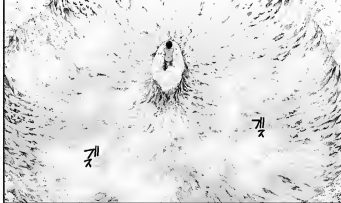
!!!



建
御
雷
!!!

カツチ







あたしと
須世璃が……

姉さまと……



ま……まあ
妖魔を倒せた
みたいだし
よかった

開邪と須世璃さんも
何だかんだで
だいお恩が合っ
きたみたいだし



驚愕じゃない
なあ……

まったく



そんなわけ
ないでしょ！
なに言ってんのよ

ええ
私と姉さまは
敵同士ですから



!?



だが僕れ

こうして
みると――

わ……っ







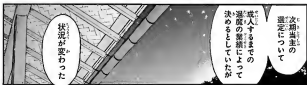


……



はい

正確には私自ら
お救いしました



次期当主の
選定について

成人するまでの
選定の継続によって
決めるとしていたが

状況が変わった



そして二人の
真主となった遠野殿は
まだどちらにも
真名を明かしておらず

いいやそれは
自分でもわからない
ので――



伴以外の者に
真名を知られては
ならぬのが
我が家の掟

だが次期当主候補の
二人が同じ人間に
真名を知られた

よって浅野殿の
真主となり
正式に夫婦としての
契りを交わした者を

島津の
次期当主とする





少年、そなたが
拒否するなら
その時は朝那・須世璃の
両名とも遠放とし

阿佐摩を
次期当主とする

!!?



よく考えるがいい
少年

今すぐに
返事は求めぬ

銀影格闘王一丁一





番外編



ただいま――



ああ、これ？
本家からの預かり物



それは？



先生、
遅かったですね

すぐご殿
用意しますから

ああ、いいわ
今日は本家で
食べてきたから

ちよつと
珍しい妖魔が
舞まってるね

この辺りじゃ
ほとんど目撃例が
無いから 能力の
調査を……ね

先生って
そんなことまで
するんですね

撫子
帰ってたの

ちようど良かった
ドライブー歸して
くれない？

あたしの昨日から
何か空を落ちてて

いいわよ
ちよつと待つて
なさい

ス……

あ……
シャンプーの匂い

Hels



いいいや
そんな

健全な男子としては
いろいろ想像しちゃう
わよね

え……っけ

お風呂上がりの
女の子の匂いって
いいわよね



なになによ
それ



し……しないって
するわけない
だろ……！

ちよつと真一郎！
変な妄想とかするん
じゃないわよ！！



あたしなんか
妄想する価値も
無いってこと？

な……なんだよ
それじゃどうすれば
いいんだよ……？

やれやれ
彼で聞いてると
ただの面談喧嘩ね

もう……真一郎の
バカ！！

あたっ！！











どう？

「子」みたい
に
大
き
く
は
な
い
け
ど
あ
た
し
だ
っ
て



もう……
察
え
切
ら
な
い
わ
ね！



あ
真
一
郎
そ
う
だ

ん…



浅野くん



やあやあ

私も



今夜は
楽しみましょう

Helena



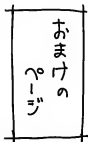




The author
高橋脩

Assistant
Miki
藤林 真
and many others

Design
R design studio









次巻予告

妖魔も無事
駆逐できた
ようだな
ご苦労
だった

那已より告げられる次期当主の条件――

7 巻

2015年夏頃
発売予定!!

※詳細はヤングエース誌上にてお知らせいたします。

しまづ
島津の

当主の嫁として
入れる

朔邪・須世璃の選択は!!

ね...ね...りん
俺...りん...かふ

Kodokawa Comics A

ISUCA

【イズカ】

高橋 脩

KODOKAWA
COMICS
A

次期当主とする

YOUNG EYES (2004年)にて好評連載中!

角川コミックス・エース

ISUCA (6)

著者：高橋修

©Chattru TAKAHASHI 2014

2014年12月29日 発行

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
角川コミックス・エース 『ISUCA (6)』
2014年12月29日初版発行

発行者 堀内大示

発行所 株式会社KADOKAWA

<http://www.kadokawa.co.jp/>

〒103-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
03-3238-4345(編集部)
編集 角川書店
〒103-8078 東京都千代田区富士見1-8-19
03-3238-4541(編集部)

印刷・デザイン：Kedesign-studio

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、転写、録音したり、ホームページ上に転載することを禁止します。
また、本作品の内容を知り得た上で、盗版等を行うことも禁止します。
本作品購入時にご承諾いただいた規約により、複製・転載がおかされる
本作品を第三者に譲渡することはできません。
本作品を添字サムネイルなどのイメージ画像は、Webダウンロード時に
各自で変更される場合がございます。
ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。
この画像はフィクションであり、実在の人物・団体とは関係がございません。



BOOK★WALKER

eBOOKで
快適読書生活



<http://www.ebookjapan.jp>

Digital Distributor
eBOOK Initiative Japan Co.,Ltd.
<http://www.ebookjapan.jp>
